

くらしにやさしい街 … 志木、よりよい環境を未来に残すために

エコシティ志木通信

2016年12月1日
(No. 84・54年ぶりの11月初雪は大雪号)

2016
*
12月

NPO法人エコシティ志木

代表理事 天田 眞

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

<http://kappa-no.net/eco-shiki/>



写真：天田 眞

志木につらなる川の風景 (12)

狭山湖 (山口貯水池)

「一級河川柳瀬川起点」の石標がある大鐘橋の上流側に、緑の草に覆われた斜面が登っていきます。これが狭山湖（正式名称は山口貯水池）のダムで、土を盛り上げてつくられたアースダムです。柳瀬川の最上流を堰き止め、1934(昭和9)年に竣工。1927(昭和2)年に支川の北川に竣工した多摩湖(村山貯水池)とともに、多摩川から引き込まれた水を貯水しており、水は東村山浄水場に送られています。周辺一帯は狭山丘陵の自然が残りますが、貯水池の周囲は水質保護のためフェンスに囲まれ、立ち入り禁止です。

(天田 眞)

11月3日（日）カヤネズミ原っぱ環境応援作戦 2016

カヤネズミの巣をさがそう !!

はい 笑って
集合写真！



今年は残念なことに台風による大雨で新河岸川が溢れカヤ原は全面水浸しになり、ヨシ・オギが倒れてしまいました。

その影響かカヤネズミの巣は見つかりませんでした。どこに避難したのか分かりませんが必ずや戻ってきて巣づくりをするものと思います。

また、11月に入ったので虫がほとんどいなくなりバッ

タ・チョウ・ハチ・テントウムシなどがわずかに採れただけでした。

今年もオギやヨシの穂がきれいな、いろは親水公園「ヨシ・オギ群落保全地」に於いて「カヤネズミの巣をさがそう！」のイベントを行いました。時間は9時から12時、参加者はスタッフ含めて68名でした。

天田代表の挨拶に始まりスケジュールの説明の後、カヤネズミの生態説明を紙芝居で行いました。埼玉県準絶滅危惧、日本一小さい野ネズミ、夜行性、ヨシ・オギに巣を作ることなど子供たちの知識を深める事が出来たと思います。

その後、3グループに分かれて、①虫さがし、②カヤネズミの巣さがし探検とオオブタクサの抜き取り体験、③矢なげゲーム、と皆夢中になって、真剣に探したり、捕まえたり、投げたり、それぞれ大人も子供も楽しんでいました。

また、出前水族館の柳瀬川の魚たち、ヌマチチブ・テナガエビ・ヌマエビ・ハグロトンボやコオニヤンマのヤゴ類などは好評でした。



あ！
虫がいた！！



カヤネズミの巣は
どこだ～～？

オオブタクサは前述の台風の影響で倒れて枯れたりしていましたが、毎年の抜き取り作業の結果が出て少なくなっているように思われます。

カヤ原は夏の渡り鳥のオオヨシキリの繁殖にも貴重な自然環境となっています。これからもこのカヤ原の自然を守って行きたいものです。

(松田勝正)

えい！
今度こそ
あてるぞ！！



矢投げに夢中

10月8日(土)

第8回 辻銀杏で街あわせ

志木ニュータウンペアも～る商店街の空き店舗を利用した、たてのよこいと主催のイベントに参加協力しました。

当会の「身近な自然ミニ博物館」のコーナーは、子どものフリーマーケットや模擬店等の隣り合わせでしたので、雨にもかかわらず大勢の子どもたちや家族連れで賑わいました。

10月14日(金)～16日(日)

第14回 いろはふれあい祭り

いろは遊学館等を会場に、当会は「身近な自然ミニ博物館」として、柳瀬川の水槽展示、市内の昆虫抜け殻などの標本、活動パネルの展示をしました。志木小学校児童達による展示見学のときに、フクラスズメの幼虫を手のひらと甲に載微妙な感触の違いを感じてもらったり、「スズメバチは冬を越せるの?」というような質問に対応したり、会期三日間にわたり、天田代表は大忙しでした。

(山口美智江)



〈仮称『いきもの図鑑』作業状況〉

全体の編集に取り掛かることができました

図鑑として収録すべきものの写真と説明文については、ほぼ揃ってきました。掲載するものの絞り込みは、もう少し検討が必要です。

現時点では、Aチーム分370種、Bチーム146種、Cチーム270種、全体では786種になりました。この中には、勉強会の為の物も含まれているので、当初予定の700種程度になる見込みです。

まだまだブラッシュアップが必要な状況で、見直しを行っています。特に写真については、道ばたで見つけた植物や樹木の名前を調べるためには、全体の姿形のわかるものと、見分ける特徴となる部分をクローズアップしたもの（花とか実とか幹や葉っぱ）がほしくなり、複数枚の写真を載せるものが増えてきています。

当初は、横長の写真で、出来るだけ統一することを想定していましたが、実際の写真を見ていくと、縦でないとはよくわからないものも多い。また個別の種ごとに掲載す

るのではなく、〇〇の仲間といった形で掲載したほうが見やすくなるものもかなり上がっています。一通りの物がやっと揃ってきたことから、全体の編集に取り掛かることができるようになりました。少し手間はかかりますが、何回か見直しをしながらいつまでも使えるいい図鑑にしたいと思っています。（青木明雄）



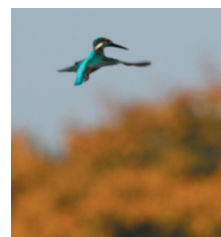
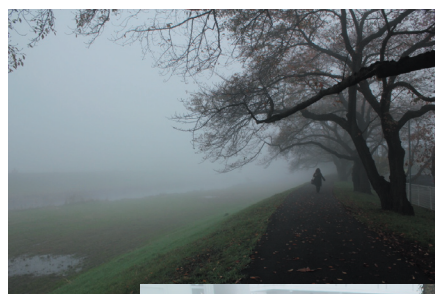
11月20日（日）柳瀬川生き物ウォッチング 濃霧の中、生き物さがし

濃霧の中、スタッフ6名で「柳瀬川生き物ウォッチング」を開催しました。

すぐに晴れるだろうと、河川清掃の後歩き始めましたが終始深い霧のままでした。メンバーは野鳥・植物・昆虫とそれぞれの興味ある物の情報を収集します。一見ばらばらの散策になってしまいい、調査方法としては致し方ないところがありますが、常連以外の参加者があったり、情報共有時に課題が残り、今後検討が必要な事業と感じます。

キジの声が聞こえたり、頭上を悠然とノスリが舞ってくれたり、アリスイ情報ありと、サプライズもありましたが、全般的に生き物の気配は少ない日でした。

最後の帰り道でカワセミがホバリングを披露し、とっさにシャッターを切りましたが。ボケボケの写真になってしまいました。私の目にも濃霧がかかっていたようです。（毛利将範）



11月30日（日）志木市内ぶらり散歩

志木の崖線を歩く

志木市には、武蔵野台地のへりがあり、その台地と新河岸川や柳瀬川に面した低地との境にある道、あるいは台地に入り組んだ谷間に面した道を今回散策しました。

普段、何気なく歩いている坂道、崖下の曲がりくねった道、細い路地などに隠れた歴史があったのです。その地形を上手にを使って野火止用水の分水跡が数多く残されていました。台地では水が大変貴重で、用水の水が有効に使われていたことがうかがわれ、感銘を受けました。

谷津地という谷間では、朝霞側斜面の中腹に野火止用水跡がありました。市場通りには昭和40年頃まで野火止用水が流れ、中道、氷川神社、行屋稲荷、市営住宅・福祉センター裏に野火止用水分水路の流末が谷津の両側に残っていました。また西原ふれあい第三公園付近に昔、志木駅方面から野火止用水の分水が流れていたそうです。柳瀬川の崖線は新座市に続き、志木市と新座市の境



市内の崖線をぶらり散歩

界部に小さな谷津になっており、野火止用水の分水が流れていて今も水路跡がありました。現在、流れている本流が残っている新座は幸せです。大変苦勞して多数分水をして、有効に利用されたものが消えていくのは残念です。（武本千左夫）

11月23日（水・祝）柳瀬川ぶらり散歩 第1回

柳瀬川駅から上流へ

今にも雨が降り出しそうな空模様の中、25名が参加し、右岸堤防を上流に向かい出発。新座市との境界の**館第一排水ポンプ場**、清瀬市との境界に近い**新座環境センター**を通過。東京都に入り、**清瀬水再生センター**（下水処理場）の放流口では、泡を立てて激しく流れ込む排水の臭いを嗅ぎ、排水の温度を測ったら23℃（少し上流での川の水温は13℃）。同所の敷地内にあり、処理水を流した小川や池がある**清瀬下宿ビオトープ公園**を見学。

東川合流点と関越道を過ぎたところで川を少し離れ、昔からの集落の**下宿地区**を歩き、**ふせぎ**行事でつくったわらの大蛇の下をくぐり、台田団地前で再び柳瀬川に。団地裏の崖線保存林も訪ねたかったが、天候の心配もあり割愛。**金山緑地公園**で、「川づくり清瀬の会」代表の宮澤さんが合流。昼食休みもそこそこに、**金山調節池**（8月の台風では調節池が満水になったとのこと）を廻り、ア



カバツケの崖下を歩き、清瀬橋の下から**空堀川合流点**を眺めて川は終了。台地への急坂を登り東所沢で解散。

次回は3月20日（月・祝）に、今年竣工した柳瀬川・空堀川合流点変更工事の現場からスタート。空堀川～淵の杜～曼荼羅淵等を廻り、西所沢駅までの予定です。（天田 眞）

いろは親水公園右岸(こもれびのこみち)

NPO法人エコシティ志木事務局長

青木 明雄



こもれびのこみちのあずまやから池を見る

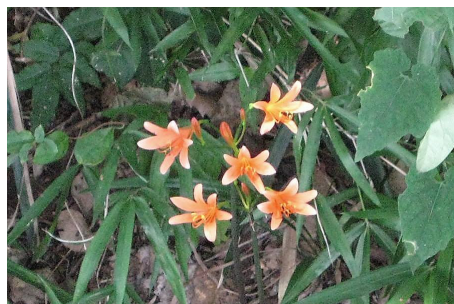
いろは親水公園の右岸には、「こもれびのこみち」の斜面林があります。武蔵野台地のへりにあり、広さは、7,123 平方メートルです。西側の公園入口から入ると、斜面林の大きな木に覆われ、木漏れ日がさす細いこみちと脇を流れる水路が長く続いています。このこみちが右岸ゾーンの名称にもなっている「こもれびのこみち」です。入口付近の小さな広場には、レンガのが敷き詰められて、真ん中に丸みのある大きな石が立ててあります。あまり日が当たらず湿っぽく、敷かれたレンガにはコケが生えています。大きな竹が生えており、敷かれたレンガを下から押し上げ、でこぼこになってしまっています。

この広場にはサザンカがあり、花の少ないこの時期にピンクの花を咲かせています。また、2本のハクモクレンがあり、早春に真っ白い大きな花が咲き、公園に、真っ先に春を告げます。

こみちを 150 メートル程行くと、池に出ます。池の脇には、あずまやがあり、ここを訪れる人の休憩場所となっています。ここが、この公園の中

心となっていて、新河岸川の土手に上がることができます。また反対側には、階段がありこの斜面の上の通路に登ることができます。池の脇にも遊歩道が伸びていて、池の端まで歩くことができます。本来の遊歩道ではありませんが、その先、池から流れでる水路の脇を通り、湧水が湧き出ているところまで、歩くことができます。湧き出た水は、更に先まで流れて、土手を潜り、新河岸川へと注いでいます。この辺りには、ツリフネソウが自生していて、夏にはピンク色の花が咲き、緑に覆われた斜面を彩ります。ツリフネソウは、市内では、ここでしか見ることができない貴重な存在です。

土手を潜り抜けた水は、小石が溜まった水路を流れ、小さいながら岩場や沢を流れる水路の雰囲気を出しています。



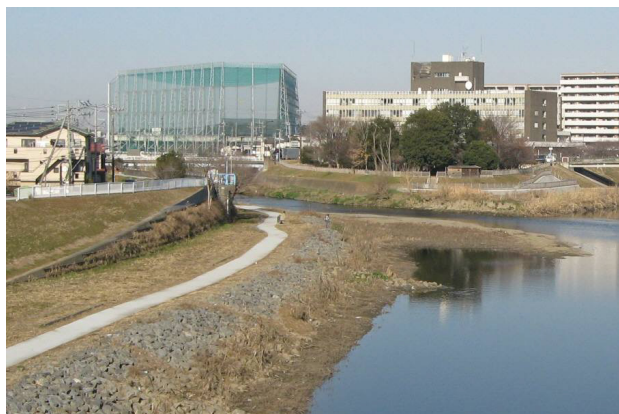
キツネノカミソリ



ツリフネソウ



公園入口

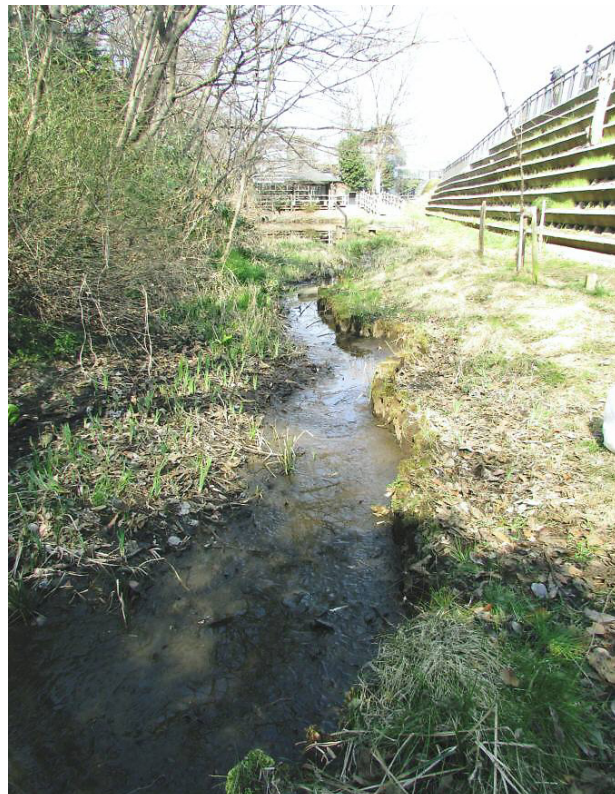


いろは親水公園下流から志木市役所を望む

この池からの水路には、いろいろなトンボがやってきて卵を産んでいきます。オニヤンマもよくやってきます。水路に溜まった落ち葉や土の掻き出しを行った時にサワガニも見つけました。この水路は、小さな生き物にとっても貴重な自然なのです。

あずまやの土手から住宅があるところまで、斜面林は200m以上続いています。大きな木が生い茂っていて、夏は、林床にまで日が当たりません。落葉樹は、冬には葉が落ちるので、地面に日が当たり、春には野草が生え、花を咲かせます。この斜面林には常緑樹も多く、そのままでは、一年中日が当たらず、野草もあまり生えてきません。シュロやアオキなどの常緑樹の伐採や刈り取りを続けてきたところ、最近では、キツネノカミソリが増えてきました。夏にはオレンジのきれいな花があちこちに見られるようになりました。

「こもれびのこみち」の斜面林は、比較的急なこともあり、斜面の中を歩く遊歩道はありません。池から遊歩道の階段を上った台地には、敷島神社との間に長いこみちがあります。西の入り口横から階段を登り、敷島神社の裏を通り、マンションの先まで200メートル続いています。ウッドチップが敷き詰められた歩きやすいこみちになっています。その先は、舗装道路となり、斜面側には、フェ



湧水が流れる斜面下

ンスが張られています。この斜面林の中は、一般の人が入れないことと、池があり、高い木が沢山あることから、鳥の声が途切れることがありません。トカゲやヘビはもちろん大きなヒキガエルや昆虫などいろいろな生き物を見かけます。運が良ければカワセミにも会えます。

また、春には、ヤマザクラやミズキの花がとてもきれいです。そしてこのこみちには、シダ類の植物も多く生えています。これだけのシダを見ることができるところは、市内には他にありません。

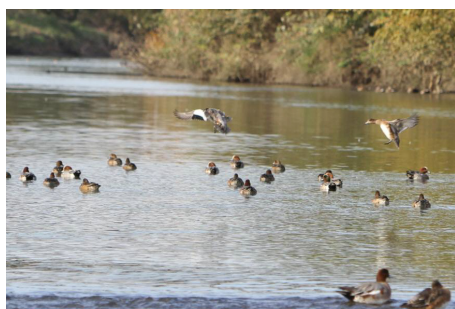
さて、河川敷ですが、ここは、緩やかな流れの新河岸川に、流れの速い柳瀬川が合流しています。勢いのある流れに乗って運ばれてきた石が、急に流れが遅くなるため、右岸には、たくさんの砂利が溜まり、広い河川敷となっています。

水辺再生100プランで右岸ゾーンの河川敷内に舗装された遊歩道が整備され、花壇も作られました。毎年、増水したときには、浸水しています

が、冬には、多くの水鳥がやってきます。この辺りでは、たくさん見ることができます。合流点手前の引又河岸の復元場所から、富士下橋の先のせせらぎ水路までの約300メートルが右岸ゾーンとして整備されています。



斜面林



新河岸川の水鳥

身近な川で、自然を守る大切さを知ってもらいたい



志木市内の小学校では、自分たちの住んでいる地域について学ぶ総合学習の時間があります。エコシティ志木では、学校の依頼にもとづいて柳瀬川をフィールドにした授業のお手伝いをしています。

9月6日志木四小5年生62名、9月12日志木三小3年生106名、9月26日志木小5年生108名、10月25日宗岡三小5年生64名に実施しました。宗岡三小は7月12日に続いて2回目でした。各学校とも川を中心に魚捕りや水生昆虫などを調べるグループと植物や昆虫・鳥などを調べるグループに分かれ、途中で交代をして両方の学習を

しました。柳瀬川が狭山湖の近くに源流があり、そこから新河岸川と合流し隅田川を経て海に注ぐこと。柳瀬川の水は雨水や地下水だけでなく、東京都の下水処理場できれいに処理された水が半分以上を占めていることなどについて学びました。

魚はメダカやヌマチチブなどの他、マハゼやモクズガニが捕れることもあり柳瀬川が海と繋がっていることが実感できました。

また、陸では、五感（見る、聞く、嗅ぐ、味わう、触れる）をとおして自然

を観察することを学びました。

最近の河原にはオオブタクサ、アレチウリ、セイバンモロコシなどの繁殖力が旺盛な外来植物に占拠され、背丈の低い植物や在来の植物が育ちにくくなっています。今年2回目になる宗岡三小の生徒さんたちが、外来生物や絶滅危惧種に強い関心を持ち、自分たちの研究テーマにしていることに感心しました。

志木市を流れる川の流域には、まだ豊かな自然が残っており、自然を守る大切さを少しでも知ってもらえたらと願っています。（山崎光久）

11月5日(土) 28年度「志木市民文化祭」

親子で楽しんだ「木の実工作」

市民文化祭・志木小学校の図工室において、木の実工作を実施しました。

今年は65名の親子が参加しました。工作の材料はドングリ・松ぼっくり・木の葉などですが、絵の具や、マーカーを用いて自由に思い思いの絵をかくて皆さん楽しむことができました。できた作品は袋に入れ持ち帰ったので、思い出になったと思います。（加藤健二）



- ① カワセミ(1) → 8月 21日(日) 水谷田んぼの水路で[青木明雄]
- ② キジ(♂ 1) → 8月 21日(日) 水谷田んぼの水路で[青木明雄]
- ③ ヒバカリ(1) → 8月 28日(日) こもればのこみち斜面林。咬まれたら「その日ばかりの命」ということで日ばかり(ヒバカリ) という名がついたとされていますが、毒蛇ではありません[青木明雄]
- ④ モグラ(死骸 1) → 10月 10日(月・祝) いろは親水公園「カヤネズミ原」で[発見; 天田真 写真; 毛利将範]
- ⑤ ノスリ(1) → 11月 20日(日) 濃霧の水谷田んぼでしばらく頭上を舞っていました[毛利将範]
- ⑥ モズ(♀ 1) → 11月 25日(金) 水谷田んぼで[毛利将範]



① 8/21カワセミ [青木]



② 8/21 キジの♂ [青木]



③ 8/28 ヒバカリ [青木]



④ 10/10 モグラ [毛利]



⑤ 10/20 ノスリ [毛利]



⑥ 10/25 モズ♀ [毛利]

環境 ひとくちメモ (42) 伊藤 智明

「木材自給率」

林野庁が平成 27 年の木材需給に関するデータを取りまとめた「木材需給表」によると、木材自給率は前年から 2.1 ポイント上昇して 33.3% となり、平成 23 年から 5 年連続で上昇しています。

国内生産では前年に比べ、用材が 30 万 5 千立方メートル (1.4%)、しいたけ原木が 2 千立方メートル (0.6%)、燃料材が 110 万 3 千立方メートル (59.8%) などそれぞれ増加し、全体で 2,505 万 8 千立方メートル (6.0%) 増加しました。

輸入では前年に比べ、燃料材が 5 万 8 千立方メートル (5.3%) 増加したものの、用材が 196 万 8 千立方メートル (△ 3.9%) 減少し、全体で 5,024 万 2 千立方メートル (△ 3.7%) 減少しました。



現在、国内の人工林が伐期を迎えており、国産木材輸出も話題になる中、過去の失敗を繰り返さないよう、伐採後の森林づくりをどうしていくのか等、今後の森林・林業に期待していきたいです。

出典：林野庁「平成 27 年木材需給表」の公表について～木材自給率は 5 年連続で上昇し、33.3% に～
<http://www.rinya.maff.go.jp/j/press/kikaku/160927.html>
画像：林野庁ホームページより

☆会員状況

2016 年度更新済み (11 月 24 日現在)

正会員(個人) 47

正会員(団体) 2

賛助会員 2

★本会の財政基盤は、会員の方の年会費が頼りです。
★今年度も継続更新をよろしくお願いします。



■当会の団体正会員

志木おやこ劇場

生活クラブ生協志木支部

■当会の団体賛助会員

慶應義塾志木高等学校

■当会が参加している団体・ネットワーク・登録制度、及び協力団体

志木おやこ劇場

いろは遊学館利用者の会

志木市コミュニティ協議会

志木市社会福祉協議会

柳瀬川流域ネットワーク

新河岸川水系水環境連絡会

新河岸川流域川づくり連絡会

柳瀬川流域水循環再生市民懇談会

彩の国南西部地域NPO連絡会

川の国応援団

埼玉県生物多様性保全活動団体登録

彩の国みどりのサポーターズクラブ

志木市公園美化活動会

埼玉県生態系保護協会志木支部

志木市放課後子ども教室りんくす

志木市立教育サポートセンター

市内小中学校

情報満載！
当会のホームページ

NPO法人エコシティ志木

<http://kappa-no.net/eco-shiki/>

志木まるごと博物館河童のつづら

<http://kappa-no.net/>

小笠原の旅

宇津木 美恵子



その2 ガイドツアー

小笠原諸島は、大陸とつながっていたことはなく、噴火して盛り上がりできた海洋島です。そのため、島に生きる動植物は、海や風によって運ばれて島にたどり着き、独自に適応拡散した固有種だけで成り立っています。ところが、人間が島を発見して以来、いろんな動植物を持ち込んだため、島の中だけで過保護に生きていた固有種は非常に弱く、外来種に負けたり人間の影響でどんどんその数が減ったり、絶滅したりしてしまいました。固有種の大切さに気づき始めた人間は、世界自然遺産として登録して、固有種の保護、外来種の除去、外来種の侵入や広がりを防ぐための様々な事業が、国、都、村、NPO などの手で展開されてきています。

保護の一つとして、観光客は、林野庁から認定されたガイドさんが一緒にないと入れない場所を決め、ガイドツアーという形で、自然の仕組みを教わりながら歩く方法がとられています。保護エリアに入るときはすべての人が、靴の裏の泥を落とし、衣服を粘着テープで拭いて植物の種子などを取り除き、プラナリアの一種の侵入を防ぐため酢酸で靴の裏を噴霧したり、海水で洗浄して、外来種の持ち込み持ち出しを防いでいます。



父島のハートロックツアー

赤土からなる岩の形がハート型に見えることから呼ばれるようになった



母島の境ヶ岳と
石門ツアー



種子除去装置



ハートロックの上

柳瀬川の川底には様々な生き物が棲んでいます。特に平瀬と呼ばれる、水深が浅く、流れがやや速く、水面が多少波立っている様な所には多く、こうした場所で、半分以上砂に埋まっている石の下流に目の細かい網を当て、石を持ち上げてみると、石の裏に虫が張り付いていたり、網の中にゴミと共に小さな虫が流れ込みます。こうした虫を水を張ったバットに入れ、ピンセットやスポイトで仕分けしながら同定します。

水の中を素早く泳ぎ回る小さな虫はカゲロウの仲間の幼虫。志木の柳瀬川で多いのはサホコカゲロウとシロハラコカゲロウ。どちらも同じような細長い体形で、最大で7～8mm（尾を除く）。腹部の側面には1節毎に木の葉状のエラが7対ついています。両者を見分けるのは尾で、サホコカゲロウは尾の中ほどに濃色の帯があり、シロハラコカゲロウ

は真ん中の尾が短いこと。

カゲロウの仲間は不完全変態で蛹の期間は無く、水面で幼虫から羽化すると亜成虫（成虫と同じ体形で翅が半透明）になり、その後1日位で、もう1度脱皮し成虫になります。亜成虫・成虫とも、雌は小さな眼で、雄にはターバン眼と呼ばれる上向きの大きな複眼があります。カゲロウは石のまわりの付着藻類などを食べています。

また、数は少ないですが、体長12mm程で、体幅が広く脚が太いシロタニガワカゲロウも見つかります。

なお、幼虫が陸に棲む、クサカゲロウやウスバカゲロウは全く違う種です。

水生昆虫は水の汚れを判断する指標にもされていて、これらのカゲロウは「きれいな水」から「少し汚れた水」に棲むとされています。

《水生昆虫1（カゲロウ）》



サホコカゲロウ幼虫



サホコカゲロウ亜成虫♂



サホコカゲロウ成虫♀



サホコカゲロウ成虫へ脱皮中



シロハラコカゲロウ幼虫



シロハラコカゲロウ亜成虫♂



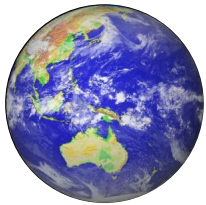
シロハラコカゲロウ成虫♂



シロタニガワカゲロウ幼虫



シロタニガワカゲロウ成虫♀



地球と日本の自然 (23)

東京湾富栄養(貧酸素)の対策 (1)

加藤 健二

前号の「東京湾水質の新たな問題点」で東京湾の水質は良いのですが、生物バランスに支障の出る栄養物質により、赤潮・青潮が発生し貧酸素で魚が浮かび上がってしまう状況を報告しました。この貧酸素対策として① 栄養を流さない努力② 干潟の生物を増加させ生物的に(アサリ、アマモなどによる生物環境の整備)浄化機能を上げるか③ 人口干潟を含め湾岸の形態を改善し生物環境をバックアップできるかなどの例を紹介したいと思います。

①は東京湾に影響を与える流域行政の動きを紹介します。

「9 都県市首脳会議」として埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、横浜市、川崎市、千葉市さいたま市の9地区の行政が広域対策を行っています。具体的には東京湾に流入する栄養の指標BOD・CODの一層の低下、およびN(窒素)P(リン)の削減のため各地の行政が連絡しあい水再生センターを強化(高度処理)することに努めています。これは流域住民の生活排水に大きな原因があり、飲食店を含めた下水排泄の改善を呼びかけています。飲食店や家庭では油と食べ物を下水へ流さない呼びかけ、また農家にはN、Pの含量の多い肥料、堆肥、家畜排せつ物の減少、またゴミの川への流入を防ぐことなどを呼びかけています。写真は柳瀬川に接する清瀬水再生センターの



HPからのものです。屋上はスポーツ設備に活用していますが、その下は微生物による浄化設備です。

②③に関しての研究、市民活動では、国土交通省を中心に「東京湾再生官民連携フォーラム」を進めています。これには多くの行政、研究機関、NPOなどが参加しています。東京湾だけでなく大阪湾、伊勢湾などの関係者とも連携し、青潮発生調査は人工衛星によるモニタリングを実施しています。江戸前生物(ウナギ、アナゴ、マハゼ、ノリ)の生育状況の調査、お台場海浜公園の海の底の生物調査、海水浴場復活プロジェクト、ラムサール条約登録20年の谷津干潟の活動、各地の干潟を守る活動、下水道水質改善研究、東京湾海底状態の調査と輸送経路への提言等々多くの課題で活動しています。毎年秋には横浜みなとみらいのレンガ倉庫ホールで研究・活動報告がされますが、具体的に次号で触れていきたいと思っています。

編集後記

◇54年振りという11月の大雪。皆さまはどこでどう過ごされましたか。雪がふると「雪景色を捕りたい」モード脳がフィールドに出ろ出ろと盛んに指令を発してきます。が、なかなか都合がつかなく、たいがい数日して出かけることになります。◇今回は翌日出動が叶いましたが、雪はほとんど消えていました。(梟)

エコシティ志木通信

第84号 2016年12月1日

〈発行〉

NPO法人エコシティ志木

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

電話/FAX 048-471-1338 (天田眞)

URL <http://kappa-no.net/eco-shiki/>

E-mail eco-shiki@ff.e-mansion.com